

文献目録

徴用工問題（朝鮮人・中国人「強制連行」）に関する文献目録（1）
 （2000年以前）

凡例：本文献目録は、徴用工問題（朝鮮人・中国人「強制連行」）に関する戦後の文献を、カテゴリー別に分類し、同一カテゴリーの中で、発行年月の古いものから列挙したものである。カテゴリーとしては、1（資料・資料集）、2（証言・証言集）、3（運動団体記録・資料）4（戦時徴用一般）、5（「強制連行」「強制労働」一般）、6（朝鮮人「強制連行」）、7（中国人「強制連行」）、8（戦後補償・戦後補償裁判）に分けた。

殆どの文献は「強制連行」「強制労働」の立場に立つものだが、そうでない文献については、一括して4のカテゴリーに分類した。3は特定運動団体の記録・資料類、5は6と7の両者にまたがるもの、もしくはどちらに属するか不明の文献であり、9は「強制連行」にまつわる戦後補償裁判に関する文献である。尚、本目録中の「強制連行」のカテゴリーには、「慰安婦強制連行」は含んでいない。

（勝岡寛次）

1 資料・資料集

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	近藤劔一編	『太平洋戦下の朝鮮』5（朝鮮近代史料朝鮮総督府関係重要文書選集 第7-8）	朝鮮史料編纂会	1964
2	石川準吉	『国家総動員史』資料編第1 第3 第4 第5 第7 第9	国家総動員史刊 行会	1975 1975 1976 1977.3 1978.3 1980.2
3	朴慶植編	『在日朝鮮人関係資料集成』第4巻 第5巻（1943年～1945年）	三一書房	1976
4	朴慶植編	『朝鮮問題資料叢書』第1巻（戦時強制連行・労務管理政策1） 第2巻（戦時強制連行・労務管理政策2） 第3巻（在日朝鮮人の生活状態(解放前)） 第12巻（日本植民地下の在日朝鮮人の状況） 第13巻（日本敗戦前夜の在日朝鮮人の状況）	アジア問題研究 所	1982.9 1981.11 1982.2 1990.9 1990.3
5	田中宏ほか 解説	『資料中国人強制連行』	明石書店	1987.6
6	長沢秀編	『戦時下常磐炭田の朝鮮人鉱夫殉職者名簿—1939.10～1946.1』	長沢秀（私家版）	1988.2
7	金英達・飛 田雄一編	『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集 1990』 『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集 1991』 『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集 1992』 『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集 1993』 『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集 1994』	神戸学生青年セ ンター出版部	1990.9 1991.7 1992.7 1993.7 1994.7

8	松村高夫	「第2次世界大戦期の朝鮮人強制連行・強制労働（資料）」	『三田学会雑誌』 83-3	1990.10
9	田中宏ほか 編	『資料中国人強制連行の記録』	明石書店	1990.12
10	戦後補償問題研究会編	『戦後補償問題資料集』第1集 第2集 第3集（「軍事動員」関係資料集） 第4集（「兵力動員実施」関係資料集） 第5集（関連新聞スクラップ集）	戦後補償問題研究会	1990.12 1991.5 1991.7 1991.10 1991.10
11	林えいだい 監修・責任 編集	『戦時外国人強制連行関係資料集』2（朝鮮人1） 『戦時外国人強制連行関係資料集』3（朝鮮人2） 『戦時外国人強制連行関係資料集』4（中国人・朝鮮人・オランダ人・イギリス人）	明石書店	1991.1 1991.9 1991.11
12	花岡問題全国連絡会編	『中国人強制連行・暗闇の記録—資料』	花岡問題全国連絡会	1991.7
13	戦後補償問題研究会編	『在日韓国・朝鮮人の戦後補償』	明石書店	1991.10
14	朝鮮人強制連行真相調査団編	『朝鮮人強制連行真相調査団全国交流集会資料集』（資料集1） 『各地の朝鮮人強制連行真相調査団の活動—1990年11月16日以降～1992年3月31日までの報道記事から』（資料集2） 『朝鮮人強制連行真相調査団全国連絡協議会・中央本部の活動[1992]』（資料集3） 『朝鮮人強制連行真相調査団1970年代の活動—北海道・九州・東北の新聞報道・復刻版』（資料集4） 『朝鮮人強制連行真相調査団全国連絡協議会・中央本部の活動[1994]』（資料集7） 『国連決議と植民地支配、強制連行—1905年条約は無効、慰安婦問題は犯罪』（資料集8） 『問われる戦争責任』（資料集11） 『真相究明と被害者の尊厳回復』（資料集13）	朝鮮人強制連行真相調査団	1992.1 1992.4 1992.4 1992.5 1994.5 1995.5 1997.3 1998.8
15	長沢秀編／ 解説	『戦時下朝鮮人中国人連合軍俘虜強制連行資料集—石炭統制会極秘文書 復刻版』	緑蔭書房	1992.6
16	飛田雄一	『十五年戦争重要文献シリーズ 第12集』（特殊労務者の労務管理）	不二出版	1993.5
17	梁泰昊編	『朝鮮人強制連行論文集成』	明石書店	1993.6
18	洪祥進	「日本の戦後処理問題に関する平壤国際会議（1993年11月7～8日）—一会議で採択された報告書 日本への朝鮮人強制連行と強制労働の実態」	『月刊朝鮮資料』 34-1（392）	1994.1
19	鈴木二郎	「資料 日本の戦後処理問題に関するピョンヤン国際シンポジウム」	『労働運動研究』 291	1994.1
20	田中宏、松 沢哲成編著	『中国人強制連行資料—「外務省報告書」全五分冊ほか』	現代書館	1995.4
21	樋口雄一 編・解説	『協和会関係資料集—戦時下における在日朝鮮人統制と皇民化政策の実態史料』増補新版	緑蔭書房	1995.6

22	長沢秀編	『戦時下強制連行極秘資料集 石炭産業内部文書 東日本篇』	緑蔭書房	1996.6
23		「日本国家による朝鮮人強制連行は超特大の拉致犯罪である—日本帝国主義の朝鮮占領被害調査委員会の告訴状（1998年6月22日）」	『月刊朝鮮資料』 38-8（447）	1998.8
24	高野真幸編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック—資料集 奈良編1』	みずのわ出版	1998.9
25		『華人労務者就労顛末報告書—神戸港における中国人強制連行資料 復刻版』（原本 1946 刊）	神戸・南京をむすぶ会	1999.6
26	高野真幸編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック—天理・柳本飛行場編』	奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会	1999.9
27	樋口雄一編・解説	『戦時下朝鮮人労務動員基礎資料集—太平洋戦争下朝鮮における戦時労務動員の実態を示す初の基礎資料集』2	緑蔭書房	2000.7
28	野添憲治	『中国人強制連行・花岡事件関係文献目録』	能代文化出版社	2000.11

2 証言・証言集

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1		日本人の朝鮮人に対する虐待と差別—植民地支配と強制連行の記録：日本人 100 人の証言と告白	『潮』144	1971.9
2		日本で中国人は何をされたか—強制連行された中国人と加害者日本人 100 人の証言（特別企画）	『潮』153	1972.5
3	大山良造	「九州地方朝鮮人強制連行の証言 1—怨歌」	『部落解放』58	1974.8
4	大山良造	「九州地方朝鮮人強制連行の証言 2—死をかけた抵抗」	『部落解放』59	1974.9
5	大山良造	「九州地方朝鮮人強制連行の証言 3—元労務係」	『部落解放』60	1974.10
6	金贊汀編著	『証言朝鮮人強制連行』	新人物往来社	1975
7	長沢秀	「ある朝鮮人炭鉱労働者の回想」	『在日朝鮮人史研究』4	1979.6
8	野添憲治	『聞き書き花岡事件』	無明舎出版	1983.3
9	野添憲治	『証言・花岡事件』	無明舎出版	1986.7
10	野添憲治	『聞き書き花岡事件』	お茶の水書房	1990.6
11	朝鮮人強制連行真相調査団編	『強制連行された朝鮮人の証言』	明石書店	1990.8
12	刊行委員会編	『証言する風景—名古屋発／朝鮮人・中国人強制連行の記録 写真集』	風媒社	1991.8
13	野添憲治	『聞き書き花岡事件』増補版	御茶の水書房	1992.4
14	林えいだい	『松代地下大本営—証言が明かす朝鮮人強制労働の記録』	明石書店	1992.8
15	橋本学、柴田巖	「中国人強制連行の傷痕・広島の場合—中国・河北省での聞き取り調査を終えて」	『月刊状況と主体』205	1993.1
16	友井公一	「北朝鮮での強制連行聞き取り調査を終えて」	『ひょうご部落解放』49	1993.1
17	野添憲治	「中国人強制連行被害者の証言」	『望星』24-1	1993.1

18	野添憲治	『花岡事件を見た二〇人の証言』	御茶の水書房	1993.6
19	徐春坤（達山義治）	「[聴取り]戦時下における一朝鮮人徴用工の労働と生活」	『専修経済学論集』28-1	1993.7
20	鄭鴻永	「住友電工伊丹製作所と朝鮮人—ある在日徴用工の証言を追跡して」（『在日朝鮮人90年の軌跡—続・兵庫と朝鮮人』）	神戸学生青年センター出版部	1993.12
21	日本中国友好協会企画	『証言中国人強制連行』（ビデオカセット1巻）	日本電波ニュース社	1995.4
22	日本中国友好協会編著	『証言中国人強制連行—ビデオ「証言中国人強制連行」ガイドブック』	日本中国友好協会	1995.7
23	松田素二	「変奏する二つの記憶—韓国人元三菱徴用工被爆者の戦争の語り」	『インパクション』99	1996.10
24	谷勝三	「歴史から抹消された人々—千葉における強制連行の実態の聞きとり調査より」	『進歩と改革』5（545）	1997.5
25	三浦幸夫	「中国人強制連行の「証言」から学ぶ—強制連行を創作劇に」	『生活教育』49-8	1997.8
26	田辺敏雄	「旧日本軍将校が証言する「中国人8000人強制連行」のウソ」	『正論』301	1997.9
27	坪内廣清	『「募集」という名の強制連行—聞き書きある在日一世の証言』	彩流社	1998.2
28	鄭晰仁	『当事者が書いた強制連行—北海道・聞に消えた十一人』	彩流社	1999.8
29	樽美政恵	「大阪地裁で朝鮮人の元徴用工が証言」	『労働運動研究』368	2000.6
30	玉井久也	「別子銅山中国人強制労働の実態—中国での聞き取り調査報告」	『季刊中国』63	2000.冬

3 運動団体記録・資料

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	朝鮮人強制連行真相調査団編	『朝鮮人強制連行強制労働の記録 北海道・千島・樺太篇』	現代史出版会	1974
2	朝鮮人強制連行真相調査団編著	『朝鮮人強制連行調査の記録 四国編』 『朝鮮人強制連行の記録 大阪編』 『朝鮮人強制連行の記録 兵庫編』 『朝鮮人強制連行調査の記録 中部・東海編』	柏書房	1992.5 1993.5 1993.11 1997.3
3	朝鮮人強制連行真相調査団編	『検証・朝鮮植民地支配と補償問題』	明石書店	1992.8
4	同団編著	『朝鮮人強制連行調査の記録—山口編 中間報告』	山口県朝鮮人強制連行真相調査団	1994.5
5	同団準備会編著	『秋田県朝鮮人強制連行真相調査団準備会会報』（1～5号合本）	秋田県朝鮮人強制連行真相調査団準備会	1996-1997

6	共和国政府 代表団李徹	「日本政府は従軍慰安婦犯罪の法的責任を認め、国家補償をすべきである—国連人権委での共和国代表団と朝鮮人強制連行真相調査団の活動」	『月刊朝鮮資料』36-6 (421)	1996.6
7	同団	『秋田県朝鮮人強制連行真相調査団会報』(6~85号合本)	秋田県朝鮮人強制連行 真相調査団	1997-2016
8		「【資料】朝鮮人強制連行真相調査団第6回全国交流会のアピール」	『月刊朝鮮資料』38-4 (443)	1998.4
9	同団編	『遥かなるアリランの故郷—栃木県朝鮮人強制連行真相調査の記録』	栃木県朝鮮人強制連行 真相調査団	1998.10

4 戦時徴用一般（「強制連行」「強制労働」と立場を異にする文献）

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	大蔵省管理局	「戦争と朝鮮統治」(『日本人の海外活動に関する歴史的調査』通巻第10冊朝鮮編第9分冊第21章)	大蔵省管理局	1947.12
2	森田芳夫	『在日朝鮮人処遇の推移と現状』(「法務研究報告書」第43集第3号)	法務研修所	1955.7
3	外務省	「在日朝鮮人の渡来および引揚げに関する経緯、とくに、戦時中の徴用労務者について」(1959.7.11)	『外務省発表集』10	1960.2
4	森田芳夫	「数字から見た在日朝鮮人」	『外務省調査月報』 1-9	1960.12
5	西岡孝男	「日本における朝鮮人労働者」(『日本の労使関係と賃金』第三章第五節)	未来社	1966
6	田中直樹	「第二次大戦前夜の炭鉱における朝鮮人労働者—石炭連合会資料を中心にして」	『朝鮮研究』72	1968.4
7	森田芳夫	「戦後における在日朝鮮人の人口現象」	『朝鮮学報』47	1968.5
8	森田芳夫	「戦前における在日朝鮮人の人口統計」	『朝鮮学報』48	1968.7
9	石川準吉	『国家総動員史』上巻 下巻 増補改訂版 補巻	国家総動員史刊行 会	1983.2 1986.10 1987.10
10	編集委員会 編	『厚生省五十年史』	厚生問題研究会	1988.5
11	宮秋算梧	『舞鶴第三海軍火薬廠徴用工員日記—自昭和18年6月31日至昭和20年8月31日』	(私家版)	1990.1
12	新井佐和子	「サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか」	『現代コリア』303	1990.7
13	新井佐和子	「再度の「サハリン裁判」提訴に思う」	『現代コリア』305	1990.10
14	鄭忠海	『朝鮮人徴用工の手記』(井下春子訳)	河合出版	1990.11
15	近藤正巳	「日中戦争下の軍夫動員と徴用忌避の実態」(『植民地台湾の研究—同化と抵抗をめぐって』第四章第二節)	(筑波大学博士論文)	1990
16	新井佐和子	「「サハリン残留韓国人」を生んだのはソ連だ」	『諸君!』23-5	1991.5
17	新井佐和子	「「被害者」を煽る一部日本人—サハリン韓国人問題」	『現代コリア』316	1991.11

18	片岡正巳ほか	『間違いだらけの新聞報道—限りなき虚報のさまざま 南京大虐殺事件・万人坑問題』	閣文社	1992.5
19	新井佐和子	「大沼保昭著「サハリン棄民」を批判する」	『現代コリア』327	1992.12
20	新井佐和子	「サハリン韓国人帰還運動の真実」1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 完	『現代コリア』332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 343 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354	1993.6 .7 .8 .10 .11 .12 1994.1 .2 .4 .5 .7 .10 .11 .12 1950.1 .3 .4 .5 .6 .7 .8
21	新井佐和子	「謝罪すればするほど悪くなるサハリン韓国人問題」	『現代コリア』337	1993.12
22	田辺敏雄	『「朝日」に貶められた現代史—万人坑は中国の作り話だ』	全貌社	1994.1
23	田辺敏雄	「中国側の完全な創作—「万人坑」」	『諸君』26-5	1994.5
24	新井佐和子	「「サハリン残留補償」をデッチ上げたのは誰だ」	『正論』268	1994.12
25	森田芳夫	『数字が語る在日韓国・朝鮮人の歴史』	明石書店	1996.6
26	田辺敏雄	「「平頂山事件」「万人坑」にみる教科書と報道の不誠実」	『正論』294	1997.2
27	新井佐和子	『サハリンの韓国人はなぜ帰れなかったのか—帰還運動にかけたある夫婦の四十年』	草思社	1998.1
28	新井佐和子	『『広辞苑』が載せた「朝鮮人強制連行」のウソ』	『正論』309	1998.5
29	新井佐和子	「「朝鮮人強制連行」という言葉の本当のオソロシサ」	『草思』1-6 (2)	1999.6
30	西岡力	「戦後補償の欺瞞」	『月曜評論』6 7	2000.6 2000.7
31	西岡力	「朝鮮人「強制連行」説の虚構」(上) (中) (下) (承前)	『月曜評論』8 9 10 11	2000.8 2000.9 2000.10 2000.11
32	新井佐和子	「「朝鮮人百万人強制連行」のウソ」	『現代コリア』404	2000.9
33	西岡力	「終戦後の朝鮮人引き揚げ事業の実情」	『月曜評論』12	2000.12

5 「強制連行」「強制労働」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	法政大学大 原社会問題 研究所編	「強制労働と労働強化」(『太平洋戦争下の労働者状態』 第四編第一章)	東洋経済新報社	1964
2	加藤佑治	「国家総動員法の根幹＝徴用規定の出現—日本における 「全般的労働義務制」成立の問題によせて」(1)(2・ 完)	『専修経済学論集』2, 3	1966.9 1967.4
3	新藤東洋男	『太平洋戦争下における三井鉱山と中国・朝鮮人労働者— その強制連行と奴隷労働』(第2版増補)	人権民族問題研究会	1973
4	供野周夫	「戦時中の空知における朝鮮人、中国人の強制労働の実 態」	『歴史地理教育』214	1973.8
5	鈴木隆史	「労働力・兵力動員と強制連行」(『岩波講座日本歴史』 21、「戦時下の植民地」二3)	岩波書店	1977.1
6	新藤東洋男	「三井三池鉱山と朝鮮人・中国人労働者の強制雇傭」(『大 牟田の近現代史—鉱工業都市の過去と現在』)	大牟田の教育・文化を考 える会	1977.5
7	北海道歴史 教育者協議 会編	「朝鮮人、中国人強制連行・労働」(『掘る—北海道の民 衆史掘りおこし運動』)	あゆみ出版	1977.8
8	小池喜孝	「伊藤昭一さんが撮りつづけた北海道の強制労働」(グラ ビア解説)	『労働運動』152	1978.8
9	オホーツク 民衆史講座 編	「強制連行された中国人、朝鮮人との連帯」(『民衆史運 動—その歴史と理論』)	現代史出版会	1978.8
10	相沢一正	「茨城県における朝鮮人・中国人強制連行に関するノー ト」	『茨城県立歴史館報』9	1982.3
11	大城美知信 新藤東洋男 共著	「三井三池鉱山と朝鮮人・中国人の強制労働」(『わたし たちのまち三池・大牟田の歴史』)	古雅書店	1983.6
12	盛岡武雄、小 野寺正巳編 著	「朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働」(『学習資料北 海道近代のあゆみ—民衆の歴史を学ぶ』)	空知民衆史講座	1984.5
13	大町雅美	「外国人に対する強制労働」(『栃木県の百年』県民 100 年史9)	山川出版社	1986.7
14	戸島昭	「徴用・動員・強制連行—戦時山口県下の工場労働者」	『山口県文書館研究紀 要』14	1987.3
15	室蘭氏史編 纂委員会編	「朝鮮人・中国人の強制労働」(『新室蘭市史』第4巻第 四章第六節)	室蘭市	1987.8
16	沢田猛	「黒い肺を追う—旧産炭地からの報告6—強制連行」	『技術と人間』16・11	1987.11
17	田中宏	「なぜ日本は過去の清算から逃げるのか—朝鮮人・中国 人強制連行の今日的課題」	『エコノミスト』68・34	1990.8.21

18	田中宏	「強制連行問題全国連絡会議の発足—市民運動と国会議員をつなぐ」	『歴史評論』496	1991.8
19	松本市史近代・現代部門編集委員会編	『松本市における戦時下軍事工場の外国人労働実態調査報告書』	松本市	1992.3
20		『長野県松本市里山辺における朝鮮人・中国人強制労働の記録—平和のためのガイドブック』	里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団	1992.7
21	松本正徳	「石炭産業における戦中期労務管理の一断面—強制連行労働者の労務管理の実態」	『中央大学企業研究所年報』13	1992.7
22	近藤泉	「平和のための朝鮮人・中国人、強制労働調査—長野県松本市里山辺の地下・半地下工場」	『Sai』4	1992.9
23	権太アイヌ史研究会編	『対雁の碑—権太アイヌ強制移住の歴史』	北海道出版企画センター	1992.10
24	石川逸子	「松本大本営と強制連行」	『国民文化』395	1992.10
25	松本正徳	「日本労務管理史断章 9(A)強制連行労働者の連行形態」 「日本労務管理史断章 9(B)強制連行労働者の使役と管理」 「日本労務管理史断章 10 完 強制連行労働者の抵抗運動と解放」	『商学論纂』34-2/3 34-4 35-1/2	1993.1 1993.2 1993.12
26	市原博	『戦時期の日本企業の外国人労働者労務管理の特質の実証的解明』	文部省科学研究費補助金研究成果報告書	1994-1995
27	同会編	『花岡事件展 95年6月報告集—中国人・朝鮮人強制連行「戦後50年」を考える』	花岡事件展実行委員会	1995.12
28	ICJ 国際セミナー東京委員会編	『裁かれるニッポン—戦時奴隷制 日本軍「慰安婦」・強制労働をめぐって』	日本評論社	1996.2
29	大畑龍次	「死んでも死に切れない元徴用工たち」	『労働運動研究』327	1997.1
30	静岡県編	「朝鮮人・中国人強制連行」(『静岡県史』第5章第4節)	静岡県	1997.3
31	新潟市史編さん近代史部会編	「徴用・動員・連行」(『新潟市史』通史編4、近代 下、第3章第7節第3項)	新潟市	1997.3
32	函館市史編さん室編	「強制連行と捕虜問題」(『函館市史』通説編第3巻第5節3)	函館市	1997.3
33	松沢哲成	『戦時体制下における産業の再編成と労働力の再配置』	文部省科学研究費補助金研究成果報告書	1997-1998
34	高井三郎	「台湾の戦時動員体制」	『軍事研究』33-9	1998.9
35	松井潔	「強制連行・強制労働を考える全国集会」	『労働運動研究』348	1998.10
36	野添憲治	「強制連行された朝鮮人・中国人」	『情況 第二期』9-11(90)	1998.12
37	ゆき・ゆきえ	「第9回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会(金沢)報告集」	『労働運動研究』357	1999.7
38	飛田雄一	「第一〇回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会 in きゅうしゅう参加の記」	『在日朝鮮人史研究』29	1999.10

39	守谷敬彦	「日本敗戦直後の北海道石狩・空知炭田での被強制連行 中国人・朝鮮人の闘争」	『佐世保工業高等専門学 校研究報告』36	1999.12
40	松本克美	「強制連行・強制労働と安全配慮義務—合意なき労働関 係における債務不履行責任成立の可否」（一）（二・完）	『立命館法学』2 5	2000 2000
41	武富登巳男、 林えいだい 編	『異郷の炭鉱—三井山野鉱強制労働の記録』	海鳥社	2000.1
42	西成田豊	「朝鮮人・中国人強制連行と現代—歴史認識の方法によ せて」	『一橋論叢』123-2 (712)	2000.2
43	キム・ジョン ミ	「日本占領下の海南島における強制労働—強制連行・強 制労働の歴史の相対的把握のために」（1）（2）	『戦争責任研究』27 28	2000.3 2000.6
44	古庄正ほか	『日本企業の戦争犯罪』（強制連行の企業責任3）	創史社	2000.12
45	王紅艶	『満州国』の劳工に関する史的研究—華北地区からの入 満劳工を中心に』	（一橋大学博士論文）	2000

6 朝鮮人「強制連行」

a 朝鮮人「強制連行」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	朴在一	「1939～45年8月間に於ける渡来（強制徴用期）」（『在 日朝鮮人に関する総合調査研究』第一章三の2D）	新紀元出版部	1957
2	李瑜煥	「戦時体制期に於ける渡日状況—一九三九～四五年の 強制徴用期」（『在日韓国人五十年史—発生因に於ける 歴史的背景と解放後に於ける動向』第三章第二節（六））	新樹物産出版部	1960
3	朴慶植	「在日朝鮮人の歴史について—朝鮮人の強制連行を中 心に」	『朝鮮研究月報』12	1962.12
4	朴庚来、渡辺 博史	「強制徴用期にみる移住者の特質」（『在日韓国人社会 の総合調査研究』第一章第二節四）	民族文化研究会	1963
5	朴慶植	「太平洋戦争における朝鮮人強制連行」	『歴史学研究』297	1965.2
6	朴慶植	『朝鮮人強制連行の記録』	未来社	1965.5
7	日本読書新聞 社編	「誰のためのいくさ—太平洋戦争と強制連行」（『朝鮮 人』Ⅲ）	日本読書新聞出版社	1965
8	野村次郎	「日本人のなかの朝鮮人—朝鮮人強制連行の意味」	『国民文化』72	1965.11
9	中菌英助	「在日朝鮮人・その歴史と背景」（『日本の中の朝鮮』（シ リーズ・日本と朝鮮4））	太平出版社	1966.5
10	渡辺惣蔵	「太平洋戦争下の朝鮮人労働者問題」（『北海道社会運 動史』所収）	レポート社	1966
11		「暴力団狩りに名をかりた徴用策動」	『月刊朝鮮資料』8-8 (87)	1968.8
12	中島忠雄	「朝鮮人労務者強制連行・強制労働および放置遺骨の 跡をたずねて」	『歴史地理教育』176	1971.1

13	深川宗俊	『鎮魂の海峡—消えた被爆朝鮮人徴用工 246 名』	現代史出版会	1974
14	深川宗俊	「朝鮮人徴用工追跡の現場から」 1—消えた 246 人 2—「知っておかねばならぬ」こと 3—対馬 壱岐から韓国へ 4—「寝た子」を起こすことなのか 5 完—さわだちつづける鎮魂海峡	『朝日ジャーナル』 16-27 (800) 16-28 (801) 16-29 (802) 16-30 (803) 16-31 (804)	1974.7 1974.7 1974.7 1974.8 1974.8
15	琴乗洞	「日本軍国主義の朝鮮同胞強制連行と虐待の実態について (上) — “九州地方朝鮮人強制連行真相調査事業の報告に代えて”	『月刊朝鮮資料』 14-8	1974.8
16	山田昭次	「太平洋戦争下の朝鮮人強制連行と日韓問題」	『法学セミナー』 232	1974.12
17	後藤英一	「朝鮮・再侵略下の現実と反撃する表現—日本化学の韓国への公害輸出と朝鮮人強制連行の歴史」	『新日本文学会』 30-3	1975.3
18	藤田明郎	「帝国砂白金開発有限会社の成立—朝鮮人の強制労働」(『和寒今昔物語—父が子に語る郷土夜話』第十話)	みやま書房	1975
19	朴慶植	『天皇制国家と在日朝鮮人』	社会評論社	1976
20	琴乗洞	「東北地方における朝鮮同胞強制労働と虐待の実態について—宮城・岩手朝鮮人強制連行・強制労働調査事業に参加して」(上)(中その1)(中その2)	『月刊朝鮮資料』 16-4 16-8 16-9	1976.4 1976.8 1976.9
21		「朝鮮人労働者の「移入」とその実態」	『北海道開拓記念館研究報告』 4 (北海道における炭鉱の発展と労働者)	1978.3
22	大塚一二	「常磐炭鉱を中心とした戦中朝鮮人労働者について」	『東北経済』 64	1978.3
23	在日朝鮮人総連合会福岡県田川支部の人々	「強制連行と差別、そして統一への願望を語る—在日朝鮮人問題の原点」	『社会主義』 322	1978.10
24	新藤兼	「朝鮮人強制労働者のことなど—湯本」(『私のいわき地図』)	たいまつ社	1979.9
25	金賛汀	『火の慟哭—在日朝鮮人坑夫の生活史』	田畑書店	1980.1
26	山田昭次	「日立鉱山朝鮮人強制連行の記録」	『在日朝鮮人史研究』 7	1980.12
27	林えいだい	『強制連行・強制労働—筑豊朝鮮人坑夫の記録』	現代史出版会	1981.12
28	山田昭次	「福島県西部地方朝鮮人強制連行の記録」	『在日朝鮮人史研究』 9	1981.12
29	小寺初世子	「第二次世界大戦におけるいわゆる「朝鮮人徴用工」への未払賃金供託事件に関する法的考察—一般市民の蒙る戦争災害の救済」	『広島平和科学』 4	1981
30	桑原真人	「朝鮮人労働者の強制連行」(『近代北海道史研究序説』第四章第三節)	北海道大学図書刊行会	1982.5
31	戸塚秀夫	『第二次世界大戦下の在日朝鮮人—一つの事例調査をとおして』(「朝鮮問題」学習・研究シリーズ第 19 号)	「朝鮮問題」懇話会	1982.5
32	平林久枝	「敗戦前山梨県白根町に徴用で連行された朝鮮人」	『在日朝鮮人史研究』 10	1982.7
33	蔡晩鎮述、森岡武雄著	『はるかなる海峡—蔡晩鎮物語』	旭川出版社	1982.11

34	尼崎日朝問題研究会編	『かくされた北海道を見る—朝鮮人強制連行・アイヌ』	尼崎日朝問題研究会	1982.11
35	桑原真人	「朝鮮人労働者の強制連行」(『近代北海道史研究序説』第四章第三節)	北海道大が図書刊行会	1982.5
36	戸塚秀夫	『第二次世界大戦下の在日朝鮮人—一つの事例調査をとおして』(「朝鮮問題」学習・研究シリーズ第19号)	「朝鮮問題」懇話会	1982.5
37	吉田清治	『私の戦争犯罪—朝鮮人強制連行』	三一書房	1983.7
38	吉田清治	「朝鮮人の強制連行・強制労働」(日本資本主義裏面史—犠牲になった人々3)	『月刊社会党』338	1984.6
39	石田真弓	『故郷はるかに—常磐炭礦の朝鮮人労働者との出会い』	アジア問題研究所	1985.4
40	佐藤忠男	「朝鮮人強制連行の責任を問う」(シネマジャーナル1—加害者の映画 上)	『月刊総評』325	1985.1
41	岩本由輝	「朝鮮人に対する強制労働」(『山形県の百年』県民100年史6)	山川出版社	1985.8
42	朴慶植	『天皇制国家と在日朝鮮人』増補改訂版(天皇制論叢6)	社会評論社	1986.10
43	戸島昭	「徴用・動員・強制連行—戦時山口県下の工場労働者」	『山口県文書館研究紀要』14	1987.3
44	李興燮	『アボジがこえた海』	葦書房	1987.4
45	山田昭次	「朝鮮人強制連行と日本人」(旗田巍編『朝鮮の近代史と日本』)	大和書房	1987.5
46	金慶海ほか	『釜山と朝鮮人強制連行』	明石書店	1987.8
47	山田昭次	「朝鮮人強制労働の歴史的前提—筑豊炭田を主な事例として」	『在日朝鮮人史研究』17	1987.9
48	織井青吾	『いつか綿毛の帰り道—ある在日韓国人古老の死』	筑摩書房	1987.11
49	相沢一正	「朝鮮人強制連行とその労働・生活—岩手県六黒見釜山のばあい」(東敏雄・丹野清秋編『近代日本社会発展史論』)	ペリかん社	1988.3
50	林えいだい	『朝鮮海峡—深くて暗い歴史』	明石書店	1988.3
51	小冊子編集委員会編	『今も聞える藻岩の叫び—北電藻岩発電所建設工事』(札幌民衆史シリーズ2)	札幌郷土を掘る会	1988.11
52	県北の現代史を調べる会編	『朝鮮人強制労働の記録—戦時下広島県高暮ダムにおける』	三次地方史研究会	1989.7
53	小冊子編集委員会編	『海峡の波高く—札幌の朝鮮人強制連行と労働』(札幌民衆史シリーズ3)	札幌郷土を掘る会	1989.8
54	林えいだい	『消された朝鮮人強制連行の記録—関釜連絡線と火床の抗夫たち』	明石書店	1989.8
55	長澤秀	「新潟県と朝鮮人強制連行」	『在日朝鮮人史研究』19	1989.10
56	高賛侑	「笹の墓標—北海道に眠る強制連行朝鮮人」	『部落解放』304	1990.1
57	兵庫朝鮮関係研究会編	『地下工場と朝鮮人強制連行』	明石書店	1990.7
58	吉岡吉典	「過去の“反省”とはどういうことか—朝鮮人強制連行者名簿問題を中心に」	『文化評論』354	1990.8

59	深川宗俊	「ある強制連行朝鮮人徴用工の死」	『新日本歌人』45-8	1990.8
60	林えいだい写真・文 高崎宗司解説	『清算されない昭和—朝鮮人強制連行の記録』(グラフィック・レポート)	岩波書店	1990.9
61	辛基秀	「悪夢の時代と朝鮮人強制連行—住友金属鴻ノ舞鉱業所」	『ヒューマンライツ』31	1990.10
62	西山武彦	「目撃した韓国人(強制連行者)の悲劇」	『月刊韓国文化』13-2	1991.2
63	金慶海	「朝鮮人強制連行の真相究明を」	『歴史と神戸』30-1	1991.2
64	西山武彦	「もうひとつの<韓国人>強制連行」(上)(中)(下)	『月刊韓国文化』13-3~5 ~5	1991.3
65	李又鳳	『傷跡は消えない—朝鮮侵略と強制連行史』	(私家版)	1991.5
66		『泉南における朝鮮人強制連行と強制労働—田奈川・川崎重工業と佐野飛行場の場合 中間報告』	大阪府朝鮮人強制連行真相調査団岬町地元まための会	1991.6
67	市原博	「戦時下の朝鮮人炭鉱労働者の実態・補論」	『金属鉱山研究』64	1991.7
68	長崎在日朝鮮人の人権を守る会編	『原爆と朝鮮人—長崎朝鮮人強制連行、強制労働実態調査報告書』第5集	長崎在日朝鮮人の人権を守る会	1991.8
69	古庄正	「朝鮮人強制連行名簿調査はなぜ進まないか」	『世界』558	1991.9
70	大阪人権歴史資料館編	『朝鮮侵略と強制連行—日本は朝鮮で何をしたか?』	大阪人権歴史資料館	1991.10
71	長野暹、金旻榮	「戦前、日本石炭産業における「朝鮮人労働者移入」の経過—1940年(昭和15年)「肥前石炭鉱業会」の資料を中心として」	『佐賀大学経済論集』24-4	1991.11
72	鍋島浩一	「朝鮮人強制連行真相調査に協力を」	『ひょうご部落開放』45	1991.12
73	殿平善彦	「民衆による和解の道を一朱鞠内における強制連行の歴史調査と顕彰運動」	『未来をひらく教育』87	1992.1
74	守屋敬彦	「住友金属舞鶴山への強制連行朝鮮人の労働災害」	『史朋』27	1992.2
75	金旻榮	「佐賀県における朝鮮人労働者の「強制連行・強制労働」	『地域経済研究センター年報』3	1992.3
76	上原俊彦	「強制連行された朝鮮人が掘った旧帝国海軍秘密地下工場」	『財界展望』36-3	1992.3
77	大塚一二	『トラジ—福島県内の朝鮮人強制連行』	鈴木久後援会	1992.4
78	長野暹、金旻榮	1940年、日本石炭産業における労働問題と「朝鮮人労働者移入」—「石炭鉱業連合会」の「労務担当者会議々事録」の分析を中心として」	『佐賀大学経済論集』25	1992.5
79	水内俊雄	「朝鮮人強制連行・強制労働を考える(エスニシティ・ジェンダー)」	『地理』37-6	1992.6
80	深川宗俊	『海に消えた被爆朝鮮人徴用工—鎮魂の海峡』	明石書店	1992.7
81	林えいだい	『死者への手紙—海底炭鉱の朝鮮人坑夫たち』	明石書店	1992.7
82	同会	『貝塚における朝鮮人強制連行と強制労働—大阪製鎖造機株式会社の場合』	大阪府朝鮮人強制連行調査団貝塚市まための会	1992.7
83	長野暹、金旻榮	「1940年代、日本石炭産業の労働事情と「朝鮮人労働者移入」の事例—佐賀県の西杵炭鉱を中心として」	『佐賀大学経済論集』25-2	1992.7

84	広島強制連 行を調査する 会編	『地下壕に埋もれた朝鮮人強制連行』	明石書店	1992.7
85	金元榮著 岩橋春美訳	『朝鮮人軍夫の沖縄日記』	三一書房	1992.7
86	浄土卓也	『朝鮮人の強制連行と徴用—香川県・三菱直島製錬所 と軍事施設』	社会評論社	1992.8
87	許在文・金潤 任述	『はてしなき涯—強制労働・発病・結婚』	(私家版)	1992.8
88	大阪人権歴史 資料館編	『朝鮮侵略と強制連行—日本は朝鮮で何をしたか?』	解放出版社	1992.8
89	大塚一二	「朝鮮人強制連行—戦争遂行の必須条件として」	『まなぶ』402	1992.8
90	(発行者と同 じ)	『戦前の堺における朝鮮人—強制連行・強制労働の実 態を明らかにするために』	堺における朝鮮人の強制 連行・強制労働の実態を明 らかにする会	1992.9
91	市原博	「随想—「朝鮮人強制連行に関する国際シンポジウム」 に参加して」	『金属鉱山研究』6	1992.9
92	松本成美	「朝鮮人強制連行と歴史教育」(上)(中)(下)	『歴史地理教育』490~492	1992.8 ~10
93	金玲希	「歴史を告発する—朝鮮人強制連行事件」(1)~(5)	『マスコミ市民』285~289	1992.8 ~12
94	朴慶植	『在日朝鮮人・強制連行・民族問題—古稀を記念して』	三一書房	1992.12
95	海野福寿	『朝鮮人強制連行に関する基礎資料の調査研究』(文部 省科学研究費補助金研究成果報告書)	明治大学	1992-19 94
96	中川由希夫	「朝鮮人強制連行の調査」	『労働運動研究』284	1993.6
97	加藤佑治 (編・解説)	「戦時下における—朝鮮人徴用工の労働と生活—戦時 労働力動員をめぐる—史料」	『専修経済学論集』28-1 (55)	1993.7
98	空野佳弘	「朝鮮人強制連行と「従軍慰安婦」問題—怠ってきた 日本の戦後責任」	『日本の科学者』28-9	1993.9
99	戸塚悦朗	「1905年「韓国保護条約」の無効と従軍慰安婦・強制 連行問題の行方」	『法学セミナー』466	1993.10
100	古庄正編著	『強制連行の企業責任—徴用された朝鮮人は訴える』	創史社	1993.12
101	兵庫朝鮮関係 研究会編	「戦時動員された朝鮮人の記録」(『在日朝鮮人90年の 軌跡—統一・兵庫と朝鮮人』第三章)	神戸学生青年センター出 版部	1993.12
102	本岡昭次	「国際社会で問われる慰安婦・強制連行問題—国連人 権小委員会の決議を中心に〔含 資料〕」	『月刊社会党』461	1993.12
103	金英達	「金英達の数字で見る在日朝鮮人の歴史(2)—解放 時の人口推定数・解放前後の「戦時動員」・「解放帰国」 数」	『Sai』9	1993.12
104	外村大	「強制連行の時代の一断面 『京城日報』紙の記事か ら」	『未来』332 333	1994.5 .6
105	脇本寿	『朝鮮人強制連行とわたし—川崎昭和電工朝鮮人宿 舎・舎監の記録』	神戸学生青年センター出 版部	1994.6
106	山田昭次	「朝鮮人強制連行研究をめぐる若干の問題」	『日本植民地研究』6	1994.6

107	同会編	『原爆と朝鮮人 第6集—佐賀県朝鮮人強制連行、強制労働実態調査報告書』	長崎在日朝鮮人の人権を守る会	1994.6
108	脇本寿	『朝鮮人強制連行とわたし—川崎昭和電工朝鮮人宿舎・舎監の記録』	神戸学生青年センター出版部	1994.6
109	林えいだい	『地図にないアリラン峠—強制連行の足跡をたどる旅』	明石書店	1994.7
110	山田昭次	「朝鮮人の皇民化政策と戦時動員」(『岩波講座日本通史』第18巻「植民地」二2)	岩波書店	1994.7
111	権載玉	『アボジ—番傘と繫いだズボン』	朝鮮青年社	1994.8
112	林えいだい	『妻たちの強制連行』	風媒社	1994.11
113	荻野富士夫	「富山県における「労務慰安婦」について—強制連行と「慰安婦」の接点」	『戦争責任研究』6	1994.12
114	海野福寿	「朝鮮人強制連行に関する基礎資料の調査研究」	『明治大学人文科学研究科紀要』36	1994
115	伊藤啓子	「朝鮮人強制連行調査団報告」	『平和と民主主義』563	1995.2
116	朴慶植	「朝鮮人強制連行」(『岩波講座日本通史』第19巻(近代4)所収)	岩波書店	1995.3
117	古庄正	「足尾銅山・朝鮮人強制連行と戦後処理」	『駒澤大学経済学論集』26-4	1995.3
118	久保井規夫	『地価軍需工場と朝鮮人強制連行—写真記録 隠された軌跡1』(見る!読む!歴史・民俗シリーズ第3巻)	明石書店	1995.7
119	同会編	『蒼き岩陰の祈り—松代大本営朝鮮人犠牲者追悼平和祈念碑建立記念誌』	松代大本営朝鮮人犠牲者慰霊碑建立実行委員会	1995.8
120	田中宇	『マンガンばらだいす—鉱山に生きた朝鮮人たち』	風媒社	1995.9
121	野鳥孝一	「長年のタブーを破って「朝鮮人強制連行」二つの秀作」	『Decide』13-6(140)	1995.9
122	長沢秀	「北炭と朝鮮人強制連行—数量的側面を中心に(資料)」	『史苑』56-1	1995.10
123	桑原真人	「戦時下の炭鉱における朝鮮人の強制連行と労働」(『戦前期北海道の社会経済史的研究』第三編第一章)	北海道大学博士論文	1996.3
124	中川雅子	『見知らぬわが町—1995 真夏の廃坑』	葦書房	1996.5
125	松本茂美編	『滑走路と少年土工夫—朝鮮人強制連行の掘り起こし』(母と子でみる99)	草の根出版会	1996.7
126	過去・未来—佐渡と朝鮮をつなぐ会	「佐渡金山・朝鮮人強制連行問題の調査活動と取り組」	『まなぶ』457	1996.10
127	高貴康稔	『韓国・朝鮮人被爆者と強制連行』	岡まさはる記念長崎平和資料館	1996.12
128	鄭鴻永	『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』	神戸学生・青年センター出版部	1997.1
129	尾上守、松原満紀	『住友別子銅山で〈朴順童〉が死んだ』	晴耕雨読	1997.6
130		特別企画展「映像は語る—大阪の朝鮮人強制連行と強制労働」(写真で感じる歴史の風景5)	『Sai』23	1997.6

131	平田剛士	「朝鮮人強制連行犠牲者遺骨発掘レポート―「歴史の真実」を掘り起こした若者たち」	『金曜日』5-34	1997.9.12
132	守屋敬彦	「第二次大戦下被強制連行朝鮮人労働者の寮生活―住友鉱業志内砒業部新歌志内砒親和寮」	『佐世保工業高等専門学校研究報告』34	1997.12
133	前田朗	「千葉の朝鮮人強制連行」(PEACE CHAIN―憲法運動の現場から20)	『マスコミ市民』351	1998.3
134	金英達	「朝鮮人強制連行―わが民族史の記憶、のために」	『ヒューマンレポート』18	1998.5
135	山田昭次	「植民地支配下の朝鮮人強制連行・強制労働とは何か」	『在日朝鮮人史研究』28	1998.12
136	守屋敬彦	『北海道と北九州におけるアジア太平洋戦争下の朝鮮人強制連行・強制労働の総合的研究』(文部省科学研究費補助金研究成果報告書)	佐世保工業高等専門学校	1998-2001
137	札幌学院大学 北海道委託調査報告書編集室編	『北海道と朝鮮人労働者―朝鮮人強制連行実態調査報告書』	朝鮮人強制連行実態調査報告書編集委員会	1999.3
138	坂井ひろ子 作、太田大八 絵	『むくげの花は咲いていますか』	解放出版社	1999.5
139	編集委員会編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック 高槻「タチソ」編』	高槻「タチソ」戦跡保存の会	1999.8
140	野添憲治	『秋田の朝鮮人強制連行―歴史の闇を歩く』	彩流社	1999.8
141	高野眞幸編	『朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック・柳本飛行場編』	奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会	1999.9
142	編集委員編	『百万人の身世打鈴―朝鮮人強制連行・強制労働の「恨」』	東方出版	1999.12
143	野添憲治	「朝鮮人強制連行の秋田の現地調査から」	『科学的社会主義』28	2000.8
144	古庄正、谷川透	「朝鮮人徴用労働者・軍人・軍属の未払賃金・俸給額を試算する」	『戦争責任研究』29	2000.9
145	長谷静夫	「佐賀県を中心として、日本と朝鮮の“古代・近代史”と“強制連行の歴史”をまなぶ」(KMJ企業部会報告)	『Sai』36	2000.9
146	守屋敬彦	「アジア太平洋戦争下の被強制連行朝鮮人の反日独立闘争」	『佐世保工業高等専門学校研究報告』37	2000.12

b サハリン残留韓国・朝鮮人

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	張在述	『「獄門島」、サハリンスクに泣く人々―「在韓韓国人」置き忘れた無告の民は訴える』	韓太抑留帰還韓国人会	1966.6
2	大沼保昭	『サハリン棄民―戦後責任の点景』	中央公論社(新書)	1992.7

3	高木健一編 著	『待ちわびるハルモニたち—サハリンに残された韓国人と留守家族』	梨の木舎	1987.7
4	柳在順・山本皓一	「サハリン望郷 44 年—強制連行朝鮮人たちの「恨みと懐しさ」の日々」	『Sapio』1-3	1989.7
5	高木健一 著、同館編	『サハリン残留韓国・朝鮮人問題—日本の戦後責任』（リパティ・ブックレット2）	大阪人権歴史資料館	1989.8
6	高木健一	『サハリンと日本の戦後責任』	凱風社	1990.2
7	山本将文	『サハリンの韓国・朝鮮人—写真報告』	東方出版	1990.5
8	宣一丸	『サハリンの空に流れる歴史の木霊』	韓日問題研究所・出版会	1990.8
9	宇野淑子	『離別の四十五年—戦争とサハリンの朝鮮人』	潮出版社	1990.9
10	朴亨柱著、 民涛社編	『サハリンからのレポート—棄てられた朝鮮人の歴史と証言』	御茶の水書房	1990.12
11	同編	『サハリン残留韓国・朝鮮人問題と日本の政治—議員懇談会の七年』	サハリン残留韓国・朝鮮人問題議員懇談会	1994.2
12	角田房子	『悲しみの島サハリン—戦後責任の背景』	新潮社	1994.3
13	アナトーリー・T・クー ージン	『沿海州・サハリン近い昔の話—翻弄された朝鮮人の歴史』	凱風社	1998.7

7 中国人「強制連行」

a 中国人「強制連行」一般

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1		「中国人強制連行事件全国調査」	『月刊社会党』24	1959.5
2	中国人殉難者 名簿共同作成 実行委員会	『中国人強制連行事件に関する報告書』 第1篇「中国人殉難者名簿」 第2篇「第1次-第8次中国人殉難者遺骨送還状況—ポツダム宣言受諾と強制連行事件」 第3篇「強制連行ならびに殉難状況」	中国人殉難者名簿 共同作成実行委員 会	1960-1961
3		「戦時中における中国人強制連行の記録」	『世界』173	1960.5
4	中野好夫	「この報告を読んで—中国人強制連行の記録」	『世界』173	1960.5
5	谷川徹三	「戦時下における中国人強制連行の記録」	『図書』128	1960.5
6	藤田茂	「われわれは中国人に何をしたか—「中国人強制連行の記を読んで」	『世界』174	1960.6
7	斎藤秋男	「中国人強制労働の事実の発掘を—北海道の生きた問題の教材化のために」	『歴史地理教育』64	1961.8
8	中国人強制連 行事件資料編 纂委員会編	『草の墓標—中国人強制連行事件の記録』	新日本出版社	1964
9	亀井美都子	「太平洋戦争下における中国人強制連行と抵抗」	『歴史評論』217	1968.9

10	千田夏光	「万人坑、の悲劇は日本にもあった！」	『現代』6-2	1972.2
11	鶴見俊輔	「事実を前にして思うこと」	『潮』153	1972.5
12	山崎文人	「いわれなき三池炭鉱の人柱」	『潮』153	1972.5
13	平岡正明編著	『中国人は日本で何をされたか—中国人強制連行の記録』	潮出版社	1973
14	金巻鎮雄	『中国人強制連行事件—東川事業場の記録』増補版	みやま書房	1976.8
15	猪瀬建造	『痛恨の山河—足尾銅山中国人強制連行の記録』2版	(私家版)	1981.11
16	編集委員会編	『霊川の流れば永遠に一殉難中国人の魂にささぐ』	木曾谷発電所建設 殉難中国人慰霊碑 建立実行委員会	1983.11
17	石飛仁	『ドキュメント悪魔の証明—検証中国人強制連行事件の40年』	経林書房	1987.5
18	原英章	「戦時下、平岡ダムにおける中国人強制労働」	『伊那』36-11(726)	1988.11
19	日本中国友好協会北海道支部連合会編	『知っていますか北海道での中国人強制連行—全国五十八事業場殉難の記録』	日本中国友好協会 北海道支部連合会	1989.5
20	たかしよいち著、中釜浩一郎絵	『北の逃亡者—中国人強制労働の悲劇』(シリーズ・ヒューマンドキュメント)	理論社	1989.8
21	池田錬二	「長野県における中国人強制連行強制労働の実態—どこまで解明され何が未解決か」	『季刊中国 研究誌』26	1991.9
22	小林文男、柴田巖	「強制連行と原爆災害—長崎における中国人犠牲者の遺族調査を終えて」	『広島平和科学』14	1991
23	久野一郎	「中国人強制連行問題解決の方途と日中共同声明の将来」	『月刊状況と主体』194	1992.2
24	石飛仁	「永眠の地求める中国強制連行犠牲者の遺骨2341体」	『サンデー毎日』71-20(3918)	1992.5
25	石飛仁	「敗戦直後にまとめられた中国人強制連行の調査全記録の行方」	『サンデー毎日』71-23(3921)	1992.5
26	上羽修	『中国人強制連行の軌跡—「聖戦」の墓標』	青木書店	1993.7
27	田中宏	「中国人強制連行“資料”の発見」	『軍縮問題資料』8	1993.8
28	藤田美和子	「中国人強制連行の記録—現れた幻の外務省報告書」	『軍縮問題資料』11	1993.11
29	同会編	『さびついた歯車を回そう—資料「華人労務者調査報告書」』	長崎在日朝鮮人の人権を守る会	1994.1
30	NHK取材班編	『幻の外務省報告書—中国人強制連行の記録(NHKスペシャル)』	日本放送出版協会	1994.5
31	猪瀬建造	『痛恨の山河—足尾銅山中国人強制連行の記録』増補改訂版	随想舎	1994.7
32	奥山昭五	「中国人強制連行事件とGHQ文書—GHQ文書で明らかになった事柄に関する中間報告(要旨)」	『季刊中国 研究誌』40	1995.3
33	牛尾美保子	「中国人被爆者と強制連行」	『飛礫 労働者の総合誌』6	1995.3
34	小山一郎	「私の「戦争」と「戦後50年」—告発!「中国人強制連行作戦」」	『月刊民商』37-8(412)	1995.8

35	田中宏	「中国人の強制連行・強制労働」	『労働運動研究』 311	1995.9
36	戦争犠牲者を 心に刻む南京 集会編	『中国人強制連行』	東方出版	1995.10
37	野添憲治	『劉連仁・穴の中の戦後—中国人と強制連行』	三一書房	1995.11
38	杉原達	「戦時期大阪への中国人強制連行—調査研究の現状と課題」	『待兼山論叢』29 (日本学)	1995.12
39	杉原達	『第二次世界大戦期日本の中国人強制連行に関する社会経済史的研究(大阪を中心に)』	文部省科学研究費 補助金研究成果報告書	1995-1996
40	老田裕美	「石家荘国際シンポジウムから—'96 中国人強制連行シンポジウムへ」	『戦争責任研究』12	1996.6
41	上羽修	「撫順炭鉱中国人労働者の大量死—万人坑否定論への反論」	『戦争責任研究』13	1996.9
42	石飛仁	『中国人強制連行の記録—日本人は中国人に何をしたか』	三一書房(新書)	1997.6
43	桜井秀一	「大阪築港への中国人強制連行」	『戦争と平和 大阪国際平和研究 所紀要』6-6	1997
44	蘇崇民* 傳波* 老田裕美 *老田裕美訳 松沢哲成 伊藤一彦	秋季シンポ／中国人強制連行の背景と実相 「撫順炭鉱の把头制度」 「撫順炭務局の日本の中国侵略時期の档案資料の研究」 「「特殊工人」と「万人坑」—日本への「中国人強制連行の原型」として」 「親方制度と把头制—中国人強制連行の背景」 「[コメント] 日中にまたがる労務支配」	『寄せ場』11	1998.5
45	前田朗	「群馬の中国人強制連行」(PEACE CHAIN—憲法運動の現場から23)	『マスコミ市民』 354	1998.6
46	金子安次	「強制連行はウソか」	『中帰連』8	1999.3
47	田中貴文	「中国人強制連行事件」	『北海道経済』410	2000.2
48	キム チョン ミ	「日本占領下の海南島における強制労働—強制連行・強制労働の歴史の総体的把握のために」①②	『戦争責任研究』28 29	2000.6 2000.9
49	押見真帆	「日本軍「毒ガス」工場の徴用工と中国人被害者—癒されぬ被毒の傷」(上)(下)	『望星』31-10 (366) 31-11 (367)	2000.10 2000.11
50	早乙女勝元編	『穴から穴へ13年—劉連仁と強制連行』(母と子でみるA11)	草の根出版会	2000.11
51	西成田豊	「中国人強制連行政策の成立過程」	『経済学研究』42	2000
52	王紅艶	『「満州国」の劳工に関する史的研究—華北地区からの入満劳工を中心に』	(一橋大学博士論文)	2000

b 花岡事件

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	石飛仁	「花岡事件」—日本列島の三光作戦	『潮』153	1972.5
2	石飛仁	『中国人強制連行の記録—花岡暴動を中心とする報告』	太平出版社	1973
3	赤津益造	『花岡暴動—中国人強制連行の記録』	三省堂（新書）	1973
4	松田解子	「花岡鉦山の惨劇—中国人強制連行の記録」（『ドキュメント昭和五十年史』4）	汐文社	1975
5	野添憲治	『花岡事件の人たち—中国人強制連行の記録』（「人間の権利」叢書16）	評論社	1975
6	舟田次郎	『異境の虹 花岡事件—もう一つの戦後』	たいまつ社	1976
7	清水弟	『花岡事件ノート』（あきた文庫2）	秋田書房	1978.3
8	編集委員会編	『花岡事件四〇周年記念集会の記録—中国殉難烈士慰霊祭日中不再戦友好の集い』	花岡の地日中不再戦友好碑をまもる会	1986.5
9	新見隆	「花岡事件—中国人強制連行の捉え方」	『寄せ場』日本寄席場学会年報5	1991.11
10	内田雅敏	「花岡事件」（特集 いま、問われる日本の戦後補償）	『法学セミナー』452	1992.8
11	劉智渠述、劉永鑫、陳萼芳記	『花岡事件—日本に俘虜となった中国人の手記』（同時代ライブラリー225）	岩波書店	1995.5
12	池川包男	『花岡事件異境の虹—企業の戦争犯罪』（現代教養文庫1536）	社会思想社	1995.9
13	野添憲治	『花岡事件の人たち—中国人強制連行の記録』	社会思想社（現代教養文庫1581）	1995.12
14	花岡事件50周年記念誌編集委員会編	『花岡事件50周年記念誌—花岡事件・秋田県中国殉難烈士慰霊祭並びに日中不再戦友好平和の集い』	花岡の地日中不再戦友好碑をまもる会	1995.12
15	石飛仁 文、西川塾 絵	『花岡事件—イラスト版オリジナル』（For beginners シリーズ74）	現代書館	1996.1
16	新美隆	「花岡事件裁判の経過と現状」	『戦争責任研究』12	1996.6
17	野添憲治	『花岡事件を追う』	御茶の水書房	1996.9
18	野添憲治	『花岡事件と中国人—大隊長耿諄の蜂起』	三一書房	1997.12
19	野添憲治著、貝原浩画	『花岡一九四五年・夏—強制連行された耿諄の記録』（ジュニア・ルポルタージュ選書1）	パロル舎	2000.6

8 戦後補償・戦後補償裁判

No.	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	『雑誌名』巻号 発行所	発行 年月
1	大阪弁護士会	『日本の旧植民地に対する戦後補償—強制連行と日本の援護法制 第36回日弁連人権擁護大会プレシンポジウム報告書』	大阪弁護士会プレシンポ実行委員会	1990?

2	新見隆	「中国人強制連行と賠償問題の現状—対鹿島交渉の現状と問題点」	『月刊状況と主体』189	1991.9
3	中西昭雄	「戦後補償」とアジアの民」	『インパクション』72	1991.11
4	中西昭雄	「戦後補償」報道批判を総点検する」	『月刊フォーラム』 3-24	1992.7
5	白杵敬子	「なぜ今、戦後責任を追及するか—韓国・太平洋戦争犠牲者遺族会対日訴訟」	『月刊フォーラム』 3-24	1992.7
6	編集委員会編	『ハンドブック戦後補償』（シリーズ・問われる戦後補償別冊）	梨の木舎	1992.8
7	丹羽雅雄	「在日・元軍属鄭商根戦後補償裁判」（特集 いま、問われる日本の戦後補償）	『法学セミナー』452	1992.8
8	古庄正	「朝鮮人強制連行問題の企業責任」	『駒澤大学経済学論集』24・2	1992.9
9	中村義幸	「戦後補償と裁判所の役割」	『法と民主主義』274	1993.1
10	高木健一	「いま、なぜ戦後補償か」	『平和と民主主義』2 (539)	1993.2
11	戸塚悦朗	「戦時賠償・補償問題解決のための第4の道—従軍慰安婦・強制連行問題の解決のために」	『法学セミナー』458	1993.2
12	小出敬子	「日本の戦後補償に関する国際公聴会」	『婦人新報』1109	1993.2
13	国際人権研究会編	『責任と償い—慰安婦・強制連行 日本の戦後補償への国際法と国連への対応』	新泉社	1993.5
14	古庄正	「日本製鉄株式会社の朝鮮人強制連行と戦後処理—「朝鮮人労働者関係」を主な素材として」	『駒澤大学経済学論集』25-1	1993.6
15	田口裕史	「私はなぜ戦後補償問題にとりくむのか（シンポジウム）」 かつ	『世界』584	1993.7
16	松本成美	「夫を返して！おばあさんの叫び—強制連行韓国人受難者遺族を迎えて」	『歴史地理教育』507	1993.9
17	藍屋邦雄	「戦後補償裁判とその争点」	『法学セミナー』38-10 (466)	1993.10
18	小川英子	「中国人強制連行調査訪中団参加報告」	『東北学院大学論集 人間・言語・情報』106	1993.12
19	高木健一	「アジアに対する戦後補償」	『平和と民主主義』551	1994.2
20		「現在係属中の戦後補償を求める訴訟一覧」	『戦争責任研究』3	1994.3
21	竜田紘一郎	「金順吉裁判の概要」（専修大学社会科学研究所公開シンポジウム—戦後補償問題の解決を目指して）	『専修大学社会科学研究所月報』371	1994.5
22	田中宏	「日本の戦後補償を考える—問題解決への視点」	『専修大学社会科学研究所月報』372	1994.6
23	新美隆	「戦後補償裁判」が問うもの—シンポジウムを終えて」（専修大学社会科学研究所公開シンポジウム—戦後補償問題の解決を目指して）	『専修大学社会科学研究所月報』372	1994.6
24	井田直子	「ひと 追悼！ 戦後補償裁判原告の陳石一さん、逝く」	『Sai』11	1994.6
25	日本弁護士連合会編	『日本の戦後補償』	明石書店	1994.7
26	山本肇	「戦後補償の意味するもの」	『軍縮問題資料』164	1994.7

27	西村卓司	「企業の強制連行を追及して」	『平和と民主主義』7	1994.7
28	額綱厚	「日本の戦争犯罪と戦争責任・戦後補償」	『日本の科学者』29-8 (319)	1994.8
29	高木健一	「なぜ、いま、戦後補償か—戦後の原点に立って考える」	『法学セミナー』39-9 (477)	1994.9
30	井田直子	「戦後何もしてこなかった日本が出したこたえ—戦後補償裁判不当判決」	『Sai』12	1994.9
31	草野洋	「“中国人強制連行、の賠償問題で新たに試される鹿島のモラル」	『政界往来』60-9	1994.9
32	田中宏	「これでは、前後50年の区切りはつかない—戦後補償問題の検証」	『世界』606	1995.3
33	古庄正	「強制連行における企業責任」	『戦争責任研究』7	1995.3
34	李鎬勲	「韓国に求められる新たな戦後補償運動」	『法学セミナー』40-4 (484)	1995.4
35	金富子	「戦後補償問題と在日50年」	『インパクション』92	1995.6
36	福田昭典	「中国人強制連行の歴史と鹿島守之助」	『月刊フォーラム』 6-62	1995.9
37	渡辺春巳	「中国からの戦後補償要求」	『戦争責任研究』9	1995.9
38	藍屋邦雄	「外国人戦後補償法（試案）について」	『法学セミナー』40-9 (489)	1995.9
39	本澤二郎	「あやまちを率直に認めよ！中国強制連行—陳・東京華僑総会名誉会長に聞く」	『野田経済』1568	1995-10
40	藍谷邦雄	「戦後補償裁判の現状と課題」	『戦争責任研究』10	1995.12
41	木元茂夫	「【資料解説】戦後補償運動の経過と今後の課題」	『月刊フォーラム』 7-66	1996.1
42	山田昭次、田中宏編著	『隣国からの告発』（強制連行の企業責任2）	創史社	1996.6
43	新美隆	「花岡事件裁判の経過と現状」	『戦争責任研究』12	1996.6
44	明神駆	「企業の戦争責任は追及できないのか—富山・不二越強制労働訴訟」	『マスコミ市民』333	1996.8
45	田口裕史	「戦後補償裁判の現状」	『世界』626	1996.9
46	坂口禎彦	「中国人強制連行・強制労働被害者に対する国および企業の対応」	『労働法律旬報』1402	1997.2.25
47	南典男	「中国人戦争被害者の要求を支える会活動—「戦後補償問題」は国民的課題」	『労働法律旬報』1402	1997.2.25
48	船越耿一	「朝鮮人強制連行における企業のイニシアチブ」	『長崎大学教育学部社会科学論叢』53	1997.3
49	丹羽雅雄	「在日韓国人元軍属の戦後補償—鄭商根大阪地裁判決の意義と課題」	『戦争責任研究』16	1997.6
50	山田博	「富山・不二越強制連行訴訟判決について」	『戦争責任研究』16	1997.6
51	山田博	「不二越強制連行訴訟」	『国際人権』8	1997.6
52	松本克美	「民法研究会 戦後補償裁判と消滅時効・除斥期間—不二越訴訟第1審判決—富山地裁判決平成八・七・二四」	『ジュリスト』1118	1997.9.1

53	小野寺利孝	「戦後補償裁判闘争の課題と展望」〔含 戦後補償裁判一覧表〕	『季刊中国』50	1997.9
54		「強制徴用、初の和解の意義—田中宏教授に聞く」(上) (下)	『アプロ21』1-10 1-11	1997.10 1997.11
55	戸塚悦朗	「強制連行、初の「和解」成立」(日本が知らない戦争責任46)	『法学セミナー』515	1997.11
56		「判例特報—川崎製鉄所強制労働訴訟第一審判決(東京地判9.5.26)」	『判例時報』1614	1997.11.21
57	相沢一正	「中国人強制連行問題の「戦後処理」に関する覚書」(丹野清秋編著『地域社会の歴史と構造』所収)	御茶の水書房	1998.3
58	小野寺利孝	「戦後補償裁判闘争の課題と展望—中国人戦争被害賠償請求事件を中心に」	『法と民主主義』328	1998.5
59	山田勝彦	「中国人戦争被害賠償請求事件訴訟において明らかとなった日本国政府の基本戦略とこれを支える法理」	『法と民主主義』328	1998.5
60	笹本潤	「戦後補償先行訴訟判決の基本特徴と法理」	『法と民主主義』328	1998.5
61	森田太三	「強制連行事件—劉連仁裁判とその後の国、企業を被告とした各地の集団訴訟について」	『法と民主主義』328	1998.5
62	新見隆	「花岡事件裁判について—二・一〇判決批判と法解釈上の論点」(特集 最近の戦後補償裁判)	『戦争責任研究』20	1998.6
63	大口昭彦	「日本製鉄元徴用工問題と新日本製鉄(株)との和解について」(特集 最近の戦後補償裁判)	『戦争責任研究』20	1998.6
64	内田雅敏	「今日の諸問題 戦後補償請求裁判を阻む「除斥期間」に風穴か」	『月刊状況と主体』271	1998.7
65	渡辺彰悟	「戦後補償裁判の角度から」	『法と民主主義』331	1998.8
66	岡田正則	「戦後補償問題における国の立法的解決義務」(ロー・ジャーナル 戦後補償)	『法学セミナー』43-9 (525)	1998.9
67	松本健男	「日本製鉄徴用工裁判の意義と争点—朝鮮人労働者に対する企業・国家の責任を問う」	『社会評論』24-4(114)	1998.9
68	宋継堯	「中国人強制連行 失明に対する補償を—西松建設を訴える」	『平和教育研究年報』 26	1998
69	伊藤孝司	「三菱重工に償いを求める—強制連行された朝鮮女子勤労挺身隊の少女たち」	『金曜日』7-7(261)	1999.2.26
70	戸塚悦朗	「不二越高裁判決の強制労働条約違反と違憲性—求められる国際法の法曹への教育」(日本が知らない戦争責任62)	『法学セミナー』44-3 (531)	1999.3
71	坂元茂樹	「戦後補償裁判が問うもの—受苦はいまだ救済されていない」	『法律時報』71-4 (877)	1999.4
72	石村修	「日本国の中国に対する戦後補償」	『専修大学社会科学研究所月報』430	1999.4.20
73	康健	「中国戦争被害者 元「従軍慰安婦」及び強制連行労工の対日賠償請求事件における法的支援に関わる活動概況について」	『法と民主主義』6 (339)	1999.6
74	川原洋子	「強制連行された中国人の損害賠償訴訟のいま」	『科学的社会主義』16	1999.8
75	小谷部一郎	「「戦時中の強制労働」で在米日本企業を狙う損害賠償請求ラッシュ」	『Sapio』11-17(236)	1999.10.13